

平成30年9月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成30年9月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

八戸市を活動拠点としているアイスホッケーチーム「東北フリーブレイズ」のアジアリーグアイスホッケー2018-2019シーズンが、9月1日（土）に開幕しました。

東北フリーブレイズにとって10年目となる記念すべきシーズンの初戦を白星で飾りました。

また、サッカーの「ヴァンラーレ八戸」は、現在、JFLセカンドステージの4位につけており、バスケットボールの「青森ワッツ」は、9月29日（土）がホーム開幕戦です。

みなさま、ぜひ地元スポーツチームの応援をよろしくをお願いいたします。

### ■東北フリーブレイズ

<http://www.sposite.com/freeblades>

### ■ヴァンラーレ八戸

<http://www.vanraure.net>

### ■青森ワッツ

<https://aomori-wats.jp>

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

### 八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 9月号 レポート

平成30年8月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	「はっち」来館者700万人突破
(2)	リオパラ五輪日本代表の天摩由貴選手 八戸市スポーツ大使に委嘱
(3)	八戸市の住民基本台帳人口 年度内に23万人割れも
(4)	八戸ブックセンター利用実績 来館者は1日平均487人
(5)	八戸市民病院緩和ケア病棟 2020年3月供用開始
(6)	「青森りんごで健康応援隊」の養成研修会開催 ～青森りんご 食べる習慣を～

## 【産業】

記事	概要
(7)	「青天の霹靂」のライスパック発売へ ～「特A」のおいしさ 手軽に～
(8)	「世界黒にんにくサミット」八戸で9月に開幕
(9)	IT関連「ShowTalk」(東京) 県、八戸市が誘致企業認定
(10)	県内でスーパー展開の「マエダ」が「みなとや」買収へ 八戸に初進出
(11)	「グルメツアーズ」開催 ～「肉」がつつり楽しんで～

## 【地域】

記事	概要
(12)	マリエントで珍しい「真っ白なムラサキウニ」展示
(13)	東北電力八戸火力3号機 撤去へ ～さようなら大煙突～
(14)	乳児の母向けイベント人気 ～悩み 独りで抱えないで～
(15)	八高専・井関准教授 がん温熱療法をサポートする超音波ロボットアーム開発
(16)	鮫角灯台「夜の一般開放」 ～灯台と月の共演 満喫～

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	八戸三社大祭 “ユネスコ効果”健在 104万人が来場
(18)	大慈寺(八戸長者) 青森県重宝に指定
(19)	夏の甲子園 光星16強ならず
(20)	大相撲八戸場所開催 県出身力士 ファン魅了
(21)	全日本少年少女武道錬成大会 市柔道少年団が優勝

## 【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>「はっち」来館者700万人突破</b></p> <p>三日町の「はっち」の来館者数が8月10日、700万人を突破した。はっちは2011年2月にオープン。近年の来館者数は年間90万人台で推移し、17年度は93万5019人が訪れた。節目の来館者となったのは、八戸市の中村星那ちゃん(2)。母親の春菜さん(24)と共に訪れた星那ちゃんには、証明書や記念品、花束などが贈られた。盛岡市から引っ越してきたばかりだという中村さん親子。春菜さんは「はっちに来るのは2回目。子どもを遊ばせるために来たが、700万人目になったのは驚いた」笑顔で話した。</p>
(2)	<p><b>リオパラ五輪日本代表の天摩由貴選手 八戸市スポーツ大使に委嘱</b></p> <p>八戸市は8月16日、2016年リオデジャネイロパラリンピックにゴールボール女子日本代表として出場した天摩由貴選手(28)＝東京都在住＝を、市スポーツ大使に委嘱した。天摩選手は八戸市出身。12年に陸上選手としてロンドンパラリンピックに出場。ゴールボールに転向して出場したリオパラリンピックでは、5位入賞を果たした。現在も、20年の東京パラリンピックを目指し、競技を続けている。天摩選手は「一人でも多くの人に八戸の良さを知ってもらい、八戸の人にはスポーツの素晴らしさを知ってもらえるよう頑張る」と抱負を述べた。</p>
(3)	<p><b>八戸市の住民基本台帳人口 年度内に23万人割れも</b></p> <p>住民基本台帳に基づく八戸市の人口が、早ければ本年度中にも23万人を割る見通しとなっている。7月末現在の人口は、23万549人。出生と死亡に伴う自然動態による減少が顕著で、転入と転出による社会動態を合わせても、毎月数十～数百人規模のマイナスが続いている。このため、市は人口減少対策として、「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に盛り込んだ262事業を進め、就業機会の創出のほか、出生率の向上や流出人材の還流を目指す。</p>
(4)	<p><b>八戸ブックセンター利用実績 来館者は1日平均487人</b></p> <p>八戸市は、八戸ブックセンターの開館(2016年12月)から18年3月までの約1年4カ月間の利用実績を明らかにした。累計来館者数は19万9639人で1日平均487人。今年7月の八戸まちなか広場「マチニワ」オープン以降は、2～3割程度増加している。累計販売冊数は1万2287冊で、1日平均約30冊。同センターは今後も各種イベントを積極的に開催し、来街者の増加や市民が本に親しむ環境づくりに取り組む方針である。</p>
(5)	<p><b>八戸市民病院緩和ケア病棟 2020年3月供用開始</b></p> <p>八戸市立市民病院は、同病院南西の敷地内に新たに建設する緩和ケア病棟の実設計概要を明らかにした。11月に着工し、2020年3月の供用開始を目指す。地上3階建ての最上階に設ける病床スペースは全個室で20床を整備する。緩和ケア病棟は、がん患者の肉体的な苦痛や、精神的なつらさを和らげるためのケアを目的とした施設。地域のがん医療の拠点として緩和ケアの充実を図る。</p>
(6)	<p><b>「青森りんごで健康応援隊」の養成研修会開催 ～青森リンゴ 食べる習慣を～</b></p> <p>青森県内の幅広い世代に県産リンゴを食べる習慣を身に付けてもらおうと、県は8月27日、県内食育関係者を対象にした「青森りんごで健康応援隊」の養成研修会を開いた。応援隊の養成は本年度からスタート。2回の受講で修了証が授与され、6月に行われた1回目はリンゴについて栽培の流れを、今回は栄養や健康機能性について学んだ。この日、講師を務めた弘前大大学院の三浦富智准教授は、プロシアニジンというポリフェノールがリンゴに含まれ、動脈硬化や老化予防などにも効果があることを紹介。また、プロシアニジンの効果で、リンゴを食べ続けると内臓脂肪が減るという近年の研究成果も報告した。応援隊に登録された隊員41人は今後、県内小学校での出前授業で講師を務めるほか、日頃の食育活動を通じて県産リンゴの知識を伝える。</p>

【産業】

記事	概要
(7)	<p><b>「青天の霹靂」のライスパック発売へ ～「特A」のおいしさ 手軽に～</b></p> <p>八戸市の米穀卸業「ライケツト」は、コメ食味ランキングで最高評価の「特A」を4年連続で獲得した青森県産米「青天の霹靂」のライスパックを初めて開発し、近日中に青森県内の量販店で発売する。同社はコメの消費量が減少する中、単身者や共働き世帯などを中心に、近年市場が拡大するライスパックに着目。県産米のPRにつなげようと、青天の霹靂での商品化を決めた。1食180グラム入り、3食セットで希望小売価格が480円（税抜き）。同社は「手間をかけず、手軽に青森産のおいしいコメを楽しんでほしい」とアピールしている。当面は県内の販売が中心となるが、将来的には県外への展開も視野に入れているという。</p>
(8)	<p><b>「世界黒にんにくサミット」 八戸で9月に開幕</b></p> <p>青森県黒にんにく協会（柏崎進一理事長）とNPO法人黒にんにく国際会議は9月6、7の両日、「第3回世界黒にんにくサミットin八戸2018」を八戸プラザアーバンホールで開く。3回目となる今年のサミットでは、ルクセンブルクで2015年12月に開かれた同国と日本の首脳会談晩さん会で、黒ニンニク料理を提供したシェフが腕を振るう。同会議は輸出促進を目指し、国際的な食品安全基準を定めた「黒にんにくにおける食品安全認証制度」を8月1日に制定。9月以降、商品を審査し、安全性が認められればロゴマークを貼付して販売できる。柏崎理事長は「サミットを通じ、ニンニク産業の裾野を広げていきたい」と意気込んでいる。</p>
(9)	<p><b>IT関連「ShowTalk」（東京） 県、八戸市が誘致企業認定</b></p> <p>青森県と八戸市は8月17日、人口知能(AI)を活用して営業を支援するシステムの開発や販売などを手掛ける「ShowTalk(ショートーク)」（東京）を誘致企業に認定し、事業所開設の基本協定を締結した。同社は市の誘致企業であるリゲイングループの系列で、昨年12月、同市三日町に「八戸マーケティングベース」を開設。7月末現在、地元から93人を雇用している。3年後をめどに地元人材の採用を100人以上増やしたい考えだ。</p>
(10)	<p><b>県内でスーパー展開の「マエダ」が「みなとや」買収へ 八戸に初進出</b></p> <p>青森県内でスーパーを展開する「マエダ」（むつ市）は8月20日、八戸市内でスーパー9店舗を運営する「みなとや」の全株式を取得し、完全子会社にすると発表した。買収によってマエダはみなとやを傘下に入れ、従業員を引き続き雇用して全店舗の営業を継続する一方、改装にも着手し、店舗名は順次、「マエダストア」に切り替える方針。31日に株式譲渡契約を締結し、9月29日に譲渡を実行する予定。マエダは小売業界の競争が激化する八戸市内へ初進出となる。</p>
(11)	<p><b>「グルメツアーズ」開催 ～「肉」がつつり楽しんで～</b></p> <p>八戸市内の飲食店計40店舗が参加する、毎年恒例のイベント「The Best of グルメツアーズ」が9月1日から10月31日まで開催している。地元の食材に親しみ、さまざまな飲食店に足を運んでもらうため、1988年に始まったイベントで、今年はテーマを「肉」に設定。2カ月間限定で、各店自慢の肉料理を楽しめる。市内の全参加店が、豪華食材を使った期間限定メニューを統一料金で提供。コースメニューは3800円、ランチは1300円（いずれも税込み）となっている。利用客を対象にアンケートを実施し、回答者の中から抽選で計152人に、八戸市内のホテルのペア宿泊券や、飲食店の食事券などが当たる特典もある。</p>

## 【地域】

記事	概要
(12)	<p><b>マリントで珍しい“真っ白なムラサキウニ”展示</b></p> <p>八戸市水産科学館マリントで、珍しい“真っ白なムラサキウニ”が展示されている。金浜漁港の船着き場付近で、潜水漁をしていたところ、水深約8メートルの海底で発見したという。館内では、一般的なムラサキウニと一緒に展示。来場者は珍しいウニに、「すごい」などと感嘆の声を上げながら見入っている。同館の担当者は「おそらく突然変異したもの。なかなか見られないと思うので、ぜひ見に来てほしい」と来場を呼び掛けている。</p>
(13)	<p><b>東北電力八戸火力3号機 撤去へ ～さようなら大煙突～</b></p> <p>2016年7月に廃止された八戸市河原木の東北電力八戸火力発電所3号機が今秋にも撤去される見通しで、同機に備え付けられた高さ約120メートルの大煙突も解体予定となった。長年にわたって八戸の産業発展に寄与するとともに、市内で最も高い構造物として市民や工業関係者に長い間親しまれてきた“臨海工業地帯のシンボル”が姿を消すこととなり、地元関係者からは「時代の流れなので仕方がないが、寂しくなる」と惜しむ声が上がっている。</p>
(14)	<p><b>乳児の母向けイベント人気 ～悩み 独りで抱えないで～</b></p> <p>乳児の母親向けのイベントや集まりが八戸市内でも増え、人気を集めている。根城コミュニティセンターでは、乳児のママのためのイベント「ナースアウト」が開かれている。「外で(Out)、授乳する(Nurse)」という意味で、家の外に出て授乳して交流しようという試み。イベントでは、参加者が抱っこなどで疲れがちな腕や肩の筋肉をほぐすストレッチの講座を受けた後、一斉に授乳する時間が設けられた。また、すぎのこ保育園内の子育て支援施設で開催している「こももcafe」では、赤ちゃんを遊ばせながら、わが子の成長について報告し、悩みを共有するなど、主に0歳程度の子どもとその親が気軽にしゃべりする場として、月1回程度開催されている。</p>
(15)	<p><b>八高専・井関准教授 がん温熱療法をサポートする超音波ロボットアーム開発</b></p> <p>八戸高専の井関祐也准教授(30)が、がんの温熱療法をサポートするロボットアームの試作機を開発した。医療現場での活用が実現すれば、超音波を使って患部付近の温度をより正確に計測し、効果的にがん細胞を死滅させることが可能となる。患者の体を傷つけずに温度を計測できるため患者の負担軽減も期待でき、井関准教授は「5年以内に実用化を目指したい」とさらに研究を進める構えだ。</p>
(16)	<p><b>鮫角灯台「夜の一般開放」 ～灯台と月の共演 満喫～</b></p> <p>4月から一般開放されている、鮫町の鮫角灯台で8月25日、夜の一般開放が行われた。夜の一般開放は昨年に初めて行われ、今年で2回目。「ザボンの月」を觀賞しようと約340人が集まった。ザボンの月とは、詩人草野心平が、作品「種差海岸」の中で、同市の浜から眺めた大きな月を「(ミカン的一种) ザボンのような月」と表現したことから、一部の人にそう呼ばれている。あいにくこの日は曇り空で、30分ほどしか確認できなかったが、来場者はさざ波の音や虫の音に耳を傾けながら、ライトアップされた灯台と月の共演を楽しんだ。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p><b>八戸三社大祭 “ユネスコ効果”健在 104万人が来場</b></p> <p>八戸三社大祭は今年も盛況のうちに幕を閉じた。今年は8月4日の後夜祭を除き全て平日開催となったが、5日間(7月31日～8月4日)で計104万人が来場。ユネスコの無形文化遺産「登録元年」の昨年を2万人も上回った。1日に霽神社で開かれた出発式、2日に長者山新羅神社で行われた加賀美流騎馬打毬にも、多くの見物客が詰め掛け、山車の合同運行以外への関心も高まっていた。最終日の後夜祭にはライトアップされた山車が宵闇を鮮やかに彩り、華やかで幻想的な光景を演出。今年最後の晴れ姿を披露し、北奥羽地方最大の祭りが閉幕した。</p>
(18)	<p><b>大慈寺(八戸長者) 青森県重宝に指定</b></p> <p>青森県教委は8月8日の定例会で、県文化財の県重宝(建造物)に、八戸市長者1丁目の「大慈寺(糠塚)本堂」と「山門」、経典を保存する「経蔵(きょうぞう)」を指定すると承認した。本堂は1805(文化2)年の再建に携わった大工の名前などを記した棟札が残っており、建築年代が明確。屋内の天井などに施された特殊な意匠も県内に見られないことから、県文化財保護審議会で指定が適当と答申されていた。今回の指定で、県文化財は281件となった。県重宝としては149件目、うち建造物は44件目。</p>
(19)	<p><b>夏の甲子園 光星16強ならず</b></p> <p>甲子園球場で8月15日行われた第100回全国高校野球選手権の2回戦で、青森県代表の八学光星が京都府代表の龍谷大平安と対戦。2年ぶり9度目の出場で、2014年の第96回大会以来の3回戦進出を目指した光星だったが、二回に3点を先制されると、終始リードを許す展開。三回に3点、七、八回に2点ずつ、九回に4点を奪われて相手に圧倒された。投手陣は福山優希、成田太一、中村優惟の3投手が継投、相手の猛攻を抑え切れずに1-14の大敗の結果に終わったが、いずれも粘投を見せて聖地にその足跡を残した。</p>
(20)	<p><b>大相撲八戸場所開催 県出身力士 ファン魅了</b></p> <p>大相撲夏巡業「八戸場所」が8月16日、八戸市体育館で開かれた。取組が始まると、阿武咲(中泊町出身)や安美錦(深浦町出身)ら青森県出身力士に大きな拍手が送られた。地元・八戸市出身の大成道と笹山の兄弟力士が登場すると、ひときわ大きな歓声が上がった。また、3横綱による土俵入りでは3人が力強い型を披露。青森県内外から訪れた約2500人が、横綱や大関の迫力ある取組を楽しんだ。</p>
(21)	<p><b>全日本少年少女武道錬成大会 市柔道少年団が優勝</b></p> <p>7月29日に東京都の日本武道館で行われた全日本少年少女武道(柔道)錬成大会に出場し、低学年(小学3・4年)の部でブロック団体優勝を果たした八戸市柔道少年団の前田監督や選手ら13人が8月22日、八戸市庁に小林眞市長を訪ね、栄えある成績を報告した。同大会は日本武道館と全日本柔道連盟の主催で、全国から約600チームが出場。低学年、高学年の部を4ブロックに分け、それぞれのトーナメント戦で頂点を競った。同少年団の優勝は、青森県勢では13年ぶり、県南地方のチームでは初の快挙だった。</p>